

総合コンサルティング会社・アクセセンチュアの中村彰二朗氏は、アクセセンチュア・イノベーションセンター（福島県のセンター共同統括として福島県会津若松市のスマートシティー推進に尽力している。DX（デジタルトランスフォーメーション）到来の時代、地方都市がスマートシティーをどのように受け止め浸透させているのかを伺う。聞き手は日本みち研究所の松田和香研究理事。

◇ 会津若松市では全国に先駆けてスマートシティーを実践していますが、その特徴を教えてください。

スマートシティーは一部のプロジェクトだけを行うのではなく、「3階建て構造」を認識することが重要です。1階がDXを取り入れるためのまちづくりの土台、2階が産業の立て直しなど地域経済をしっかりさせる場、その上で「Well-being（人々の幸福）」を追求するのが3階です。この10年、人口約12万人の会津若松市を「ミッドジャンプ」と見立て、できるだけスピーディーに物事を決められる体制で取り組んできました。

## 会津若松市に見るスマートシティーの現在

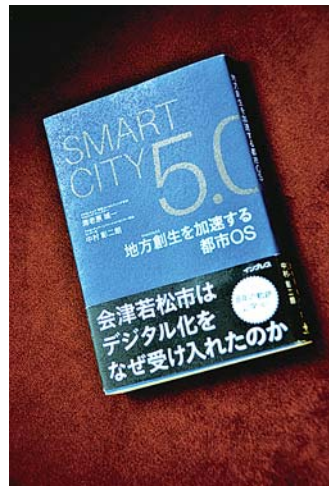
コロナ禍の影響は出ているのでしょうか。

新型コロナウイルス出現以前、スマートシティーは一部の自治体や地域だけの事業でしたが、コロナでテレワークなどを社会全体が経験して一気に注目されています。東日本大震災をきっかけに会津に復興支援拠点をつくった当時は、日本が分散に踏み切るチャンスだと思ったのですが、残念ながらそうならなかった。とはいえ、会津モデルを横展開すれば、いずれ分散社会も成就し、一極集中も是正するだろうとやってきたところに、コロナ禍がさらなる前進のきっかけになりました。観光業は苦戦されていますが、これも一時的な話だと考えます。会津若松の経営陣は、わりとポジティブに捉えています。福島の人たちは辛い経験から自分たちでどうにかやってきたという歴史もあるもので、今回も乗り越えられると考えており、皆そんなに暗くないです。

ここまでの成功の秘けつはなんでしょうか。

スマートシティーは成功体験が大事です。事前に明確な同意（オプトイン）をした上で、自分の健康データや家のエネルギーデータを出すと、それを活用できる集合体。地域が良くなる。経験した人たちはその先を期待するし、未経験の人たちもやってみようかなと考えだし、マジョリティー層が少しずつ加わる。DXのようによく分からないものも、自分で経験してこそ理解できるもの。今、会津若松市民の約20%が積極的にオプトインしていて、これがもうじき30%を超えてくる。50%を超えると、例えば市長が変わるようなことがあっても会津の政治は大きく変わらないと思うのが、ここを超えるのが直近の目標です。

台湾のデジタル担当相

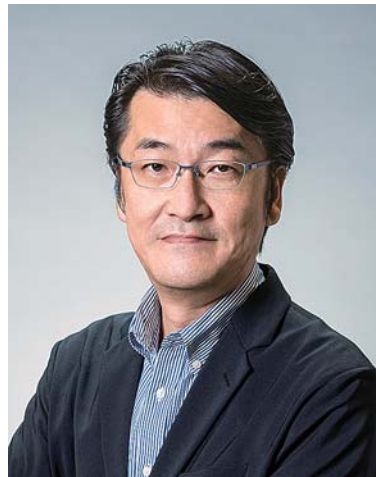


会津若松市の地域活性化を紹介する「SMART CITY 5.0」(アクセセンチュア・海老原城一氏、中村氏著)

ードリー・タンさんはデジタル民主主義が目指す将来像だと唱えています。われわれが会津若松市でやってきたのは、オプトインを徹底し、市民一人一人とインタラクティブで、自ら参加する関係をつくることです。国と市民との関係は、これまで選挙が唯一の参加手段でしたが、例えば自宅のエネルギーデータをオプトインしたらカーボンニュートラル推進も現実的になる。それは、自分のデータを国の経営のために使っていたかどうかという参加の意思です。会津若松市はスーパースマティーの認定審査を受けているところですが、認定されれば、独自に進めてきたデジタル通貨を、給付が必要な場合その日のうちに家族構成や収入に応じた金額を振り込めるようになる。その関係が築ければ、市民は行政を信頼しますよね。

日本で広く展開するためには、地域に信頼される存在が必要ですね。

会津若松市で実証したモデルを全国に横展開する取り組みも進めています。まず興味を持っていただいた自治体の首長と話して「やりましょう」という話になったら、市民に信頼され地域の中心になってくれるアーキテクト候補者を探します。スマートシティーは10〜20年かかるので、その間ずっとさまざまな人を巻き込み続けてやっていけるアーキテクトが必要です。2回目訪問時に首長とそのアーキテクト候補の方と議論して、DXでやっていく方針を意思決定してくれたら、僕は自分が持つ全てのナレッジを共有します。



(なかむら・しよつじゆん) アクセンチュア アクセンチュア・イノベーションセンター 福島センター 共同統括 マネジング・ディレクター。宮城県出身。最近の推し(最近没入していること)は「分散社会の後のモビリティとして飛行艇をどう活用するか?を考えたこと」。



聞き手・松田和香氏  
(まつだ・わか) 日本みち研究所研究理事。最近の推しは「那須・福島界隈でのトレッキング」。

過去の連載はみち研のウェブページ (<http://www.rirs.or.jp/>) からご覧いただけます。